

助産学実習 I

単位数：9 単位

○橋本 美幸：臨床看護学講座准教授
松浦 志保：臨床看護学講座講師

1. 科目の教育方針

妊娠・分娩・産褥・新生児期の基礎的な助産実践を科学的根拠に基づいて実践できる能力と正常からの逸脱を予防するための助産診断力および実践力を修得する。この過程を通し、助産師の責務と規範を学びつつ助産師としてのアイデンティティを育む。

2. 実習目標

- 1) 対象とのコミュニケーションを通して、対象のニーズ、個別性を理解することができる。
- 2) 妊娠期の助産診断ができる。
- 3) 妊娠期の助産計画を科学的根拠に基づいて立案、実施、評価できる。
- 4) 対象の個別性や優先順位を考慮して助産ケアの実践ができる。
- 5) 自分の行った助産過程を振り返り、自己の課題を明確にし、実践につなげることができる
- 6) 周産期に必要な保健医療チームとの連携、助産師の責任と役割について考えることができる。

3. 教育の方法、進め方、評価等

1) 実習施設

益田赤十字病院
済生会江津病院
江田産婦人科クリニック
島根大学医学部附属病院

2) 実習時期（期間）

前期実習：1 年次前期（5 週間）
後期実習：1 年次後期（4 週間）

3) 実習内容

- ・分娩介助、ベビーキャッチ、産褥・新生児事例、帝王切開見学及び産褥事例、など
- ・保健指導、助産師外来見学
- ・妊娠中期～産後 1 か月健診までの継続事例

【評価】

実習目標に沿って以下の内容から総合的に評価する

実習記録、実習への取り組み姿勢、妊産褥期の評価表、カンファレンス参加状況、
実習レポート